**情報社会学の一考察**

A study of Infosociomics

情報　太郎/Taro JOUHOU1・社会　花子/Hanako　SHAKAI2

1情報大学情報社会学部　教授[[1]](#endnote-1)　・　2社会大学情報学部　後期博士課程

［Abstract］

300 words以内

［キーワード］

情報社会、Web2.0、分散協調ワーク、テレワーク

1. **はじめに**

　本論文の目的は、Web2.0時代の流れのなかで、その流れが筆者の継続研究課題である分散協調型テレワークへどのような影響を及ぼすのか、そしてWeb2.0の流れのなかでより有効な分散協調型テレワークのあり方を考察することにある。情報が新たな、そして重要な社会基盤となりつつあることは誰でもが肯定するところである。背景に、それを支えるICTの急速でダイナミックな進展がある。一方では、ICTを有効に活用する場面での貢献部分と期待に反する部分のパラドクスの論争がみられる。それはWeb1.0時代が既存の社会通念や仕組みの枠内でのICT化に限定されていたからであると考える。

**２．情報社会学とは**

［参考文献］

[1] 公文俊平『情報社会学序説－ラストモダンの時代に生きる』NTT出版、2004年

1. メールアドレス（希望者のみ掲載。希望しない場合は脚注ごと削除） [↑](#endnote-ref-1)